

2018 年度 カンファレンス東京公開講座のご報告

「重度障害のある人のケアにおける IoT の可能性」

講師：早稲田大学人間科学学術院 巖淵 守教授

去る 2019 年 1 月 26 日（土）、聖路加国際大学において、ミシガンネット主催が主催する 2018 年度カンファレンス東京が開催されました。

講師の巖淵 守教授の巧みな話術に惹きこまれ、身近な「(IoT を利用した)モノ」について一緒に考えたり、クイズに答えたり、あっという間に時間が経ちました。「成長から成熟を遂げていっている」福祉機器の存在に改めて気づかされた 90 分となりました。

製品化されたテクノロジーとして、外出が不自由であればボタンを押すだけで生活必需品が頼める『Amazon 発注ボタン』、触ったら反応する『ピエゾ』、言語・非言語を用いて意思を伝える『AAC: Augmentative & Alternative Communication』、さらには PC 画面上にスイッチイメージを作って ON/OFF できる『エアスイッチ』などが紹介されました。

印象に残ったのは、『OAK: モーションヒストリー』、我々の目視で確認が難しいであろう、微細でゆっくりした動きをとらえる方法です。さまざまな障がいのある人や、高齢の人に接する医療・福祉職では、1 分、いや 30 秒を「待って」相手の表出をとらえ、気持ちを理解することが出来ているのかと振り返りました。

すでに開発され製品化されているテクノロジーを知り、利用していくことで、ケアの対象や患者として相対していた人とコミュニケーションを深め、もっと多様性を受け入れる社会につながると感じられたカンファレンスでした。

黙って観るコミュニケーション



武井雄樹・巖淵守・中野祥隆 編著

<巖淵 守編著, anacLab,2016>



<講義の様子>

